

---

講師：元) 防衛省防衛研究所統括研究官  
拓殖大学大学院客員教授

## 武 貞 秀 士 氏

---

### < プロフィール >

1949年神戸市生まれ。

拓殖大学大学院特任教授。専門は朝鮮半島論、国際関係論、安全保障論。

1968年－1972年慶應義塾大学法学部政治学科で国際関係論を専攻、卒業。1977年3月、慶應義塾大学大学院博士課程修了。1975年7月－2011年2月、防衛庁防衛研修所（現、防衛省防衛研究所）に36年間勤務した。1979年、韓国延世大学韓国語学堂卒業。1983－1985年、米国スタンフォード大学、ジョージ・ワシントン大学の客員研究員をつとめる。1991年-1992年、韓国中央大学客員教授（国際交流基金日本研究プロジェクトによる）として国際学部で韓国語による講義を行う。2011年6月－2013年2月 韓国延世大学国際学部アジア専攻コースの専任教授として、英語による教育を実施。「戦後東アジア国際関係史」「戦後日本の外交と防衛政策」など4科目を担当。2014年1月－現在 拓殖大学海外事情研究所特任教授、兼拓殖大学大学院特任教授（「東アジア研究論」と論文指導を担当）。

その他の研究活動として、図們江フォーラム(中国・延辺大学主催)に、2008年の第1回以降、5回参加して論文発表をした。2015年10月、モンゴル大統領府安全保障会議傘下、国家戦略研究所において中国、ロシアの専門家以外で初の外国人客員研究員をつとめた。

著書に『なぜ韓国外交は日本に敗れたのか』（PHP研究所、2016年）、『東アジア動乱』（角川学芸出版、2015年）、『金正恩の北朝鮮』（共著、角川学芸出版、2014年）、『韓国は日本をどれほど嫌いか』（PHP研究所、2013年）、他。

BSフジテレビの「プライムニュース」「プライムイブニング」、BS日本テレビの「深層ニュース」、テレビ朝日の「朝まで生テレビ」「いま世界は」などにゲスト出演している。